

# < 1 > 総 説

1. 沿 革	1
2. 山 口 市 の あ ゆ み	3
3. 位 置 と 地 勢	5
4. 市 域 の 移 り 変 わ り	6
5. 人 口	7



## 1. 沿革

山口県のほぼ中央に位置する山口市域では、旧石器時代の遺物や縄文時代の土器がわずかながら出土しており、太古の昔から人が生活していたことがわかる。弥生時代になると、稻作農耕がはじめられるとともに、山口盆地を中心として多くの定住集落が営まれるようになり、人口も増加したと考えられる。

古墳時代には、朝田墳墓群（国史跡）や大内氷上古墳（県史跡）をはじめとし、古墳が各地に築かれるとともに、古墳を築いた人々の集落が、平地や低地を中心に多く存在した。このころ、瀬戸内海の遠浅の地形を利用し、秋穂地区から秋穂二島地区にかけての海岸では、美濃ヶ浜式と呼ばれる独特の形をした土器を用いた塩つくりが盛んにおこなわれた。生産された塩は、奈良時代の都である平城宮の発掘調査で出土した荷札木簡にも記載があり、特産品（調）として遠方へも運ばれていたことが判明している。

奈良時代半ばから平安時代前半期には、陶地区から櫛野川左岸の小郡地区百合にかけて、須恵器を焼く窯が多く築かれた。また、平安時代になると、長門鑄銭使の停止をうけて、天長2（825）年、陶・鑄銭司地区に官銭を鋳造する役所である鑄銭司（国史跡）が設置される。鑄銭司は、藤原純友の乱による焼き討ちに遭いながらも、陶・鑄銭司地区内を移動しつつ11世紀初頭頃まで存在し、本朝十二銭のうち、8種の銭貨を鋳造した。阿東地区の蔵目喜銅山からも銅・鉛の鋳銭原料を鋳銭所に送ったという伝承が残されている。このように古代の山口市南部地域は一大産業地帯となり、活況を呈していたと考えられる。

平安時代の終わりになると源平合戦が起こる。これに関係した平氏の焼き討ちで焼失した東大寺を再建するため、後白河法皇の命により、俊乗房重源が周防国へ下向し、徳地地区で東大寺再建に使用する木材を確保するため、大規模な森林開発をおこなう。

一方、平安時代頃から周防国衙の在庁官人として力をつけ、鎌倉時代には幕府の御家人として在京した大内（多々良）氏一族は、南北朝期にはじめて守護となり、周防国を権限掌握した。大内氏は、その本拠を氏寺がある大内地区から山口盆地へと段階的に移し、戦国期のはじめ（15世紀半ば）頃には、大殿地区に最大で2町四方とされる広大な館（守護所）を構えた。また、家臣を中心に館周辺への集住政策を進めた結果、大規模な都市的空間が形成され、山口は西国一と言われるほどに繁栄した。小郡地区は、山口の外港としての機能を有していた。大内氏による支配体制は、天文20（1551）年の陶隆房らのクーデターを直接的な転機として弱体化し、弘治3（1557）年に大内義長の自刃で幕を下ろした。

この間、大内氏の庇護の下、雪舟は山口を本拠として活動し、大内氏の注文に応じて制作した国宝「山水長巻」をはじめとする優れた作品をのこした。また、大内氏は連歌師の宗祇を迎えて連歌会を主催したり、イエズス会の宣教師フランシスコ＝サビエルの布教活動を許可するなど、文化的活動に対しても理解と造詣が深かった。そのため、後に、「大内文化」と総称されるさまざまな文化遺産が育まれることとなった。

大内氏の滅亡後、山口をはじめとする大内氏の領国は、戦国大名毛利氏の支配するところとなった。毛利氏は、豊臣秀吉と和睦を結び、関ヶ原の戦いでは豊臣方にいた。しかし、戦が徳川方の勝利に終わったため、毛利氏は、領国を周防・長門の二国に削減され、日本海側の萩へ本城を構えることとした。江戸時代の

山口地区は、萩往還沿いの重要な商業地として「定市」がおかれるなど、少なからず繁栄した。小郡地区の津市には、勘場（代官所）が置かれ、小郡宰判の中心地として、また山陽道の宿場町として大いに栄えた。また、西廻り航路が開設された関係で、阿知須地区では廻船業が栄え、阿知須浦には防火を目的とした居蔵造の町並みが形成された。

幕末になると、尊皇攘夷がおこり、明治維新への大きなうねりとなる。文久3（1863）年には、列強からの侵攻に備えるため、藩主毛利敬親は藩庁を萩から山口へと移した。この後、山口は維新の策源地として、再び政治の表舞台に登場することとなった。維新後は、藩庁を引き続き県庁として使用することとなったため、県庁所在地となり、県政の中心地としての役割を担った。

県庁は、はじめ上宇野令村にあり、後の合併で山口町に所在することとなった。そして、昭和4年4月10日に実施された山口町と吉敷村との合併により、山口市が誕生した。その後も断続的に合併が進められ、市域・人口ともに増加していった。

平成17年10月1日、山口市、吉敷郡小郡町・秋穂町・阿知須町、佐波郡徳地町の1市4町による合併、また、平成22年1月16日、山口市、阿武郡阿東町による合併、いわゆる平成の大合併により、人口約19万9,000人に達する山口市が誕生し、今日に至っている。

## 2. 山口市のあゆみ

- 30,000 年前～12,000 年前頃……………毛割遺跡などで旧石器が使われる  
5,500 年前頃……………美濃ヶ浜遺跡などで縄文土器が使われる  
611（推古 19）：大内氏の始祖・百濟の琳聖太子が来山  
825（天長 2）：周防鋳銭司が置かれ、貨幣の鋳造が始まる  
1186（文治 2）：俊乗坊重源が東大寺再建のため、周防国に来る  
1358（正平 13）：大内弘世が防長両国を統一  
1372（文中 元）：明使・趙秩が来山  
1442（嘉吉 2）：大内盛見が兄義弘の菩提を弔うため、建立を計画した現在の瑠璃光寺五重塔が完成  
1461（寛正 2）：雪舟が大内教弘に招かれ来山  
1550（天文 19）：サビエル一行が来山し、大内義隆の許しでキリスト教を布教  
1600（慶長 5）：毛利氏が防長二カ国の大名となる  
1650（慶安 3）：小郡と名田島で開作が始まる  
1783（天明 3）：秋穂八十八ヶ所靈場の勧請が始まる  
（天保年間）：このころ、廻船業で栄えた阿知須地域で居蔵造の町並みが作られ始める  
1863（文久 3）：長州藩主 毛利敬親が、萩から山口の政事堂に移る  
三条実美ら七卿が来山  
1871（明治 4）：廃藩置県により山口藩庁が山口県庁に  
1889（明治 22）：山口町町制施行  
1900（明治 33）：小郡駅開業  
1901（明治 34）：山陽本線全線開通  
小郡町町制施行  
1908（明治 41）：軽便鉄道（小郡新町～湯田）開通  
1913（大正 2）：山口～小郡間の軽便鉄道の廃止、国有鉄道の開通  
1923（大正 12）：国鉄小郡～益田間全通（山口線）  
1925（大正 14）：宇部鉄道（小郡～阿知須）が開通  
1929（昭和 4）：山口市市制施行  
1932（昭和 7）：種田山頭火が小郡に其中庵を開く  
1940（昭和 15）：秋穂町町制施行  
阿知須町町制施行  
1955（昭和 30）：徳地町町制施行  
1955（昭和 30）：阿東町町制施行  
1957（昭和 32）：佐波川ダム竣工  
1963（昭和 38）：第 18 回国民体育大会開催  
1964（昭和 39）：阿知須干拓完工  
1973（昭和 48）：SL さよなら運転  
1974（昭和 49）：中国自動車道（小郡～小月）開通

1975（昭和 50）	: 山陽新幹線が全線開通 中国自動車道（小郡～山口）開通
1979（昭和 54）	: SL やまぐち号運転開始
1980（昭和 55）	: 中国自動車道 徳地インターチェンジ開設 スペイン パンプローナ市と姉妹都市締結
1985（昭和 60）	: 中華人民共和国 济南市と友好都市締結
1992（平成 4）	: 周防大橋・南部海岸道路完成 種田山頭火ゆかりの其中庵を復元
1993（平成 5）	: 大韓民国 公州市と姉妹都市締結 山口ケーブルテレビジョン開局
1995（平成 7）	: 小郡町各界友好訪中団が、中国山東省皐平県と友好交流を促進する議定書締結
2001（平成 13）	: 山口きらら博開催
2004（平成 16）	: 県央部 1 市 4 町合併協議会設置
2005（平成 17）	: 1 市 4 町で閉庁・閉町式 県央部旧 1 市 4 町の合併により、新「山口市」誕生
2006（平成 18）	: 第 21 回国民文化祭・やまぐち 2006 開催
2007（平成 19）	: 山口市総合計画策定（計画期間 平成 20 年度～29 年度）
2009（平成 21）	: 山口市・阿東町合併協議会設置 大韓民国 昌原市と姉妹都市締結
2010（平成 22）	: 阿東町で閉庁・閉町式 山口市、阿東町が合併
2011（平成 23）	: 第 66 回国民体育大会・第 11 回全国障害者スポーツ大会開催
2012（平成 24）	: 第 63 回全国植樹祭開催
2013（平成 25）	: 第 16 回日本ジャンボリー・第 30 回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー開催
2015（平成 27）	: 第 23 回世界スカウトジャンボリー開催 山口市誕生 10 周年記念式典開催 第 28 回全国健康福祉祭やまぐち大会ねんりんピックおいでませ! 山口 2015 開催
2016（平成 28）	: フィンランド ロヴァニエミ市と観光交流パートナーシップ協定締結
2017（平成 29）	: 山口県央連携都市圏域（山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町）の連携協約を締結
2018（平成 30）	: 第二次山口市総合計画策定（計画期間 平成 30 年度～令和 9 年度） 第 35 回全国都市緑化フェア「山口ゆめ花博」開催
2020（令和 2）	: 中国自動車道 湯田温泉スマートインターチェンジ開通
2021（令和 3）	: 山口ゆめ回廊博覧会開催
2022（令和 4）	: 阿知須総合支所、阿知須地域交流センター及び徳地地域複合型拠点施設の供用開始 第 30 回地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会やまぐち」開催
2024（令和 6）	: ニューヨーク・タイムズ紙「2024 年に行くべき 52 力所」選出 SWISS TOURISM AWARDS（スイス観光賞）受賞

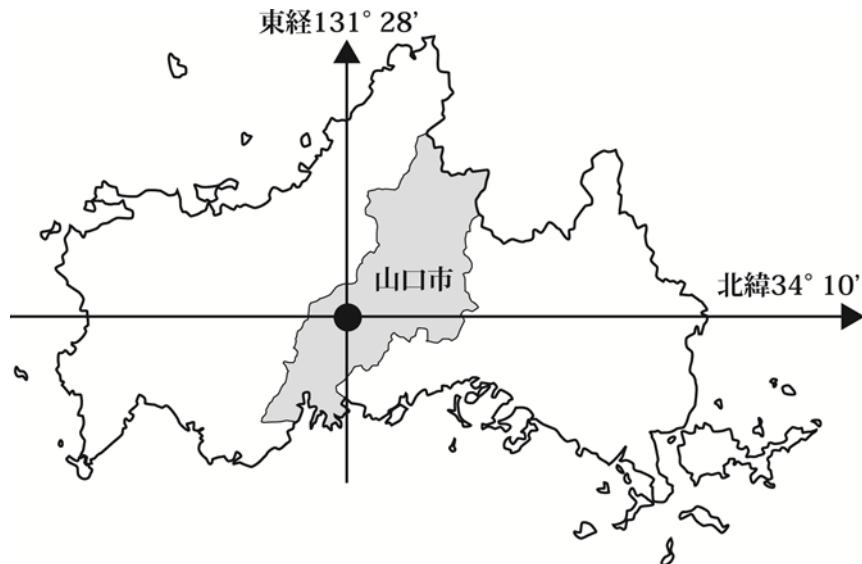
### 3. 位置と地勢

山口市は、県のほぼ中央に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は防府市、周南市、西は美祢市、宇部市、北は萩市、さらに島根県津和野町、吉賀町に接している。市街の中心部の緯度・経度は、東経 131 度 28 分、北緯 34 度 10 分である。

東端	東経 131 度 47 分	北緯 34 度 26 分	山口市阿東徳佐
西端	東経 131 度 17 分	北緯 34 度 00 分	山口市阿知須青畑
南端	東経 131 度 25 分	北緯 33 度 58 分	山口市秋穂竹島
北端	東経 131 度 39 分	北緯 34 度 30 分	山口市阿東嘉年

地勢は、北部の山地から、山口地域は樺野川が、徳地地域は佐波川が、盆地、南部の臨海平野を経て瀬戸内海に流れ込んでおり、阿東地域は阿武川が「名勝長門峠」を経て、萩市より日本海へと流れている。

また、広域交通網が東西南北に走り、県内の主要な都市に 1 時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった高速交通網との接続の便もよく、広域交流の拠点としての優位性を有している。



## 4. 市域の移り変わり

山口市は昭和4年に当時の吉敷村と合併して市制を施行した。昭和16年には宮野村と、同19年には小郡町、阿知須町、平川村、大歳村、陶村、名田島村、秋穂二島村、嘉川村、佐山村と合併した。しかし、22年に阿知須町、24年に小郡町が分離。昭和31年に鋳銭司村、昭和38年に大内町（仁保、小鯖、大内）と合併した。

小郡町は、明治34年に、秋穂町・阿知須町は、昭和15年に町制を施行。徳地町は昭和30年に出雲、八坂、柚野、島地、串の5ヶ村を合併し町制を施行し、阿東町は同年に篠生、生雲、地福、徳佐、嘉年の5ヶ村を合併し町制を施行した。

平成17年10月に、山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の1市4町が合併、また、平成22年1月に山口市、阿東町が合併し、現在1,023.22平方キロメートルの広い市域を有している。



## 5. 人 口

### (1) 人 口 の 推 移

(各年 10 月 1 日)

年 次	世帯数	人 口			摘要
		男	女	計	
昭和55年	世帯 56, 549	人 83, 103	人 90, 487	人 173, 590	国勢調査
昭和60年	60, 880	87, 966	95, 183	183, 149	国勢調査
平成2年	65, 415	89, 917	97, 876	187, 793	国勢調査
平成7年	71, 327	92, 364	100, 808	193, 172	国勢調査
平成12年	76, 257	94, 118	102, 997	197, 115	国勢調査
平成17年	79, 909	94, 757	104, 540	199, 297	国勢調査
平成22年	81, 299	92, 997	103, 631	196, 628	国勢調査
平成27年	84, 994	94, 245	103, 177	197, 422	国勢調査
令和2年	87, 094	92, 352	101, 614	193, 966	国勢調査
令和6年	88, 988	90, 408	99, 139	189, 547	登録上の世帯数及び人口数（住民基本台帳）を基に推計

注) 平成22年1月16日合併後市区域で掲載

## (2) 地域別・地区別世帯数及び人口、面積（住民基本台帳人口）（令和6年9月30日）

地域・地区	面 積	世 帯 数	人 口		
			計	男	女
山 口 市 総 数	k m <sup>2</sup> 1,023.22	世帯 91,526	人 186,240	人 88,894	人 97,346
山 口 地 域 計	356.87	66,747	136,037	64,894	71,143
大 殿	13.07	3,802	7,336	3,524	3,812
白 石	4.71	5,222	10,981	5,102	5,879
湯 田	4.09	6,665	12,317	5,783	6,534
仁 保	72.83	1,330	2,689	1,314	1,375
小 鱒	43.82	1,930	3,886	1,881	2,005
大 内	24.92	10,521	22,969	10,977	11,992
宮 野	38.41	6,464	13,278	6,232	7,046
吉 敷	26.67	6,843	14,710	6,910	7,800
平 川	19.61	8,740	16,508	8,109	8,399
大 歳	10.82	6,901	13,926	6,688	7,238
陶	11.52	1,029	2,049	988	1,061
鑄 錢 司	20.42	1,268	2,313	1,130	1,183
名 田 島	8.93	552	1,160	541	619
秋穂二島	16.15	1,061	2,077	1,007	1,070
嘉 川	28.87	3,234	7,174	3,449	3,725
佐 山	12.02	1,185	2,664	1,259	1,405
小 郡 地 域 計	33.39	12,294	25,382	12,336	13,046
秋 穂 地 域 計	24.09	3,023	5,980	2,822	3,158
阿 知 須 地 域 計	25.49	4,238	9,420	4,489	4,931
徳 地 地 域 計	290.33	2,639	4,826	2,234	2,592
阿 東 地 地 域 計	293.06	2,585	4,595	2,119	2,476

※面積（山口市総数）は、令和6年10月1日発表の「全国都道府県市区町村別面積調」による。

### (3) 年齢別人口

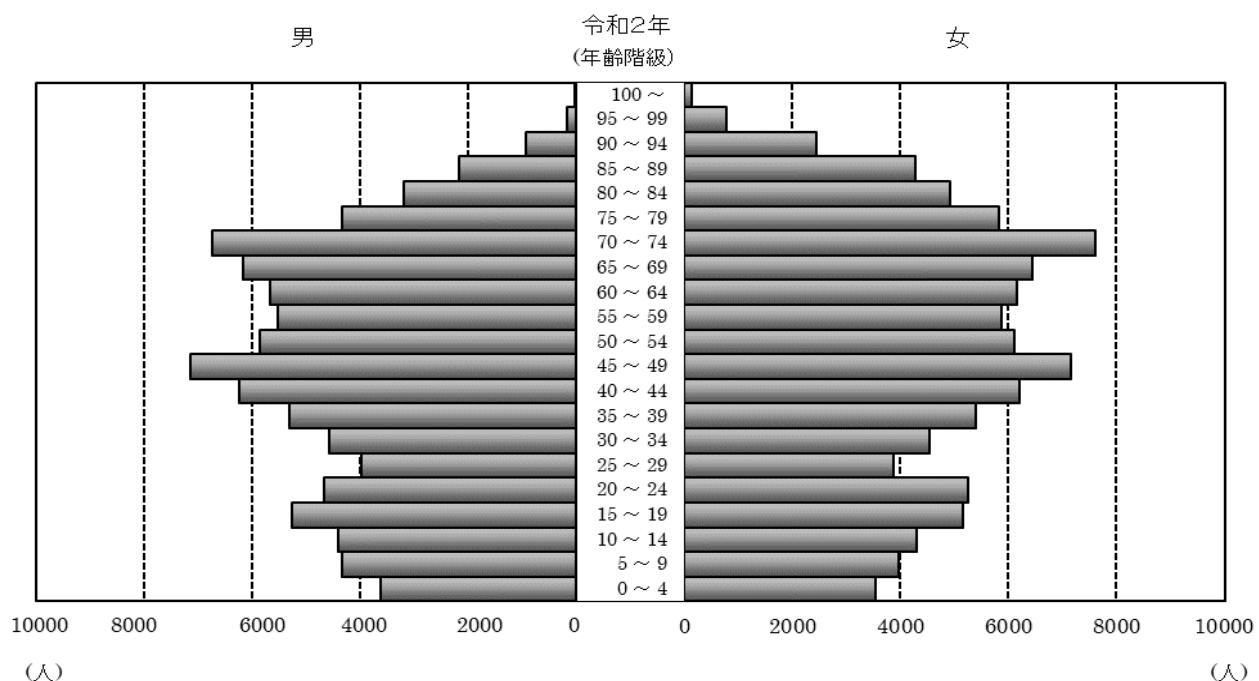
単位：人

(令和2年国勢調査)

年齢区分	総 計	男	女	年齢区分	総 計	男	女
0～ 4 歳	7,168	3,624	3,544	50～54 歳	11,946	5,845	6,101
5～ 9	8,296	4,334	3,962	55～59	11,403	5,528	5,875
10～14	8,702	4,396	4,306	60～64	11,836	5,671	6,165
15～19	10,404	5,253	5,151	65～69	12,601	6,153	6,448
20～24	9,912	4,654	5,258	70～74	14,354	6,743	7,611
25～29	7,846	3,979	3,867	75～79	10,158	4,327	5,831
30～34	9,110	4,565	4,545	80～84	8,105	3,181	4,924
35～39	10,690	5,297	5,393	85～89	6,444	2,164	4,280
40～44	12,436	6,243	6,193	90～94	3,385	927	2,458
45～49	14,279	7,125	7,154	95～	1,126	187	939

※年齢不詳・・・男 2, 156・女 1, 609

人口ピラミッド（令和2年国勢調査）



#### (4) 人口動態

単位：人

(山口県人口移動統計調査)

区分		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
自然動態	出生	計	1,427	1,416	1,329	1,225	1,269	1,160	1,075
		男	706	714	668	641	635	604	537
		女	721	702	661	584	634	556	538
	死亡	計	2,228	2,182	2,221	2,318	2,465	2,497	2,559
		男	1,147	1,092	1,111	1,119	1,180	1,219	1,246
		女	1,081	1,090	1,110	1,199	1,285	1,278	1,313
社会動態	転入	計	7,922	7,992	7,499	7,274	7,786	7,828	7,646
		男	4,315	4,399	4,144	4,082	4,300	4,339	4,208
		女	3,607	3,593	3,355	3,192	3,486	3,489	3,438
	転出	計	8,012	7,943	7,473	7,248	7,575	7,590	7,651
		男	4,404	4,315	4,187	3,992	4,138	4,199	4,256
		女	3,608	3,628	3,286	3,256	3,437	3,391	3,395
人口増減	自然増減	-801	-766	-892	-1,093	-1,196	-1,337	-1,484	
	社会増減	-90	49	26	26	211	238	-5	

※令和2年及び令和5年及び令和6年は、「山口県人口移動統計調査」月次報告書の値を集計

#### (5) 労働力状態男女別15歳以上人口

単位：人

(令和2年国勢調査)

区分	計	男	女
総 数 ※	166,035	77,842	88,193
労働力人口	95,510	51,311	44,199
就業者	92,119	49,183	42,936
完全失業者	3,391	2,128	1,263
非労働力人口	63,015	22,446	40,569

※ 労働力状態「不詳」を含む

(6) 産業別 15 歳以上就業者数

(令和 2 年国勢調査)

区分		就業者人口(人)			構成比
		計	男	女	
第一次産業	農業	3,653	2,180	1,473	(91.90%)
	林業	228	188	40	(5.74%)
	漁業	94	70	24	(2.36%)
	小計	3,975	2,438	1,537	4.32%
第二次産業	鉱業, 採石業, 砂利採取業	46	35	11	(0.29%)
	建設業	7,211	5,871	1,340	(45.73%)
	製造業	8,510	5,852	2,658	(53.97%)
	小計	15,767	11,758	4,009	17.12%
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	610	510	100	(0.85%)
	情報通信業	1,550	1,030	520	(2.17%)
	運輸業, 郵便業	4,548	3,608	940	(6.36%)
	卸売業, 小売業	15,188	7,315	7,873	(21.26%)
	金融業, 保険業	2,053	1,001	1,052	(2.87%)
	不動産業, 物品賃貸業	1,447	846	601	(2.03%)
	学術研究, 専門・技術サービス業	2,716	1,672	1,044	(3.80%)
	宿泊業, 飲食サービス業	5,156	1,872	3,284	(7.22%)
	生活関連サービス業, 娯楽業	2,950	1,096	1,854	(4.13%)
	教育, 学習支援業	6,410	2,826	3,584	(8.97%)
	医療, 福祉	14,825	3,633	11,192	(20.75%)
	複合サービス事業	865	480	385	(1.21%)
	サービス業 (他に分類されないもの)	6,016	3,457	2,559	(8.42%)
	公務 (他に分類されるものを除く)	7,122	5,124	1,998	(9.97%)
	小計	71,456	34,470	36,986	77.57%
分類不能の産業		921	517	404	1.00%
総数		92,119	49,183	42,936	100.00%

※ 構成比のうち、( ) 内は各産業別小計を分母としたもの

